

## まちづくり懇談会 岩村

日時：平成 30 年 10 月 30 日（金）午後 7 時～8 時半

場所：岩村コミュニティセンター

---

### 4. 「はたらく」「たべる」「くらす」の政策について

■企画部長 岩村の自治区のまちづくりの状況について簡単に説明する。

岩村地域計画。現在恵那市では平成 28 年から 37 年の 10 カ年の第 2 次総合計画で事業を実施している。各 13 地域では、この 10 カ年で地区計画を策定して頂き、その計画に基づいて地域づくりに取り組んで頂いている。計画は平成 27 年度に策定された。この場には策定にかかわった方も多くみえると思う。

岩村の地域計画の内容。キャッチフレーズ、「“消滅しないぞ いわむら”～人が元気人が輝く 人が財産～」。

計画の柱を 3 つ掲げている。1、訪れたいまち。2、住み続けたいまち。3、子どもの笑顔あふれるまち。今年の事業の例をこれから紹介する。各地域で事業を実施して頂くに当たり、市からは地域のまちづくり活動補助金を交付している。本年度は、岩村地区では 6 つの事業で、補助金を 270 万円で交付決定している。その他、自治区の運営経費として、特に用途を制限しない交付金がある。これは 13 地域均等割に人口割を若干のせており、152 万 1 千円。合わせて 422 万 1 千円。

計画の柱に沿って補助金の事業を紹介する。

いわむら城下町のひなまつり。計画の柱 1。実施団体は「いわむら城下町のひなまつり賑わい構想委員会」。3 月に春を告げる女城主の里ひなまつりということで広く認知されている。期間中、毎週日曜日にイベントを開催する。非常に多くのお客様に来て頂いており、多くのまちづくり関係者もかかわっている。

岩村城跡景観対策。計画の柱 1。実施団体は城下町ホットいわむらほか複数の団体。ふるさとの財産と歴史を守る力の結集ということで多くの団体に協力して頂いており、春夏 2 回作業を実施している。春夏で約 200 人が参加し、中学生や東濃森林管理署にも参加頂いている。

いわむら城下おかげまつり。計画の柱 2。いわむら城下町おかげまつり実行委員会。

「秋の実りに感謝！秋の大賑わい市」。今週末に開催されるということで、現在準備で大変な時期かと思う。今年は「半分、青い。」の効果もあり、ふくろうまつりと合わせて開催ということで、さらに多くのお客様がみえると思う。友好市町村との交流の場であるとともに昨年は 1 万 3 千人が来場した。今年はこれ以上にお客様がみえることが予想される。

体験プログラムいわむら五っこ。計画の柱2。いわむら体験プログラム実行委員会。人と体験を通してまちの魅力を伝える体験イベント。前期後期で、30年度後期では26の体験プログラムを展開中で、昨年度は874人の参加があった。着地型観光ということで、他の地域では行っていない先進的な取り組み。

地域防災力の向上。計画の柱2。実施団体は自主防災隊。地域の安全を守るため、身近なことで出来ることから始めよう。実施内容は、伝建地区を中心とした家庭用消火器の設置、火災報知機の取り付け実施。

こども塾。計画の柱3。実施団体は城下町ホットいわむらほか。子どもが町に愛着を持てるよう大人が出来ることということで、実施内容は田植え、稲刈り体験、まちなか子ども作品展の催しを実施。

地域のまちづくり補助金を使っていない、地域それぞれの団体が自主財源や別の補助金を活用して実施しているものを紹介する。

夏のイベント。「いわむら夏まつり」いわむら夏まつり大変装行列実行委員会。「ザ・縁日」岩村城再建構想実行委員会。恵南商工会青年部岩村支部。「薪能」今年で34回目、いわむら城址薪能実行委員会。

地域イベント。「秋のふれあいウォーキング」今年で5回目、富田活性化委員会。今年は12月8日に開催予定の「トラクターイルミネーション」今年で7回目、主催は何か楽しいことやろまいか！！富田。「飯羽電車道まつり」、今年で6回目、飯羽電車道発展会。

「偉人顕彰イベント」。先週開催された言志祭は今年で22回目、佐藤一斎顕彰会。「下田歌子賞」今年で16回目、今年は12月15日に開催予定。岩村コミセンで表彰式を実施され、主催は下田歌子賞実行委員会ほか。

地域のまちづくり活動補助金を使ってこういった計画目的に近づけようという活動の他、色々なイベントも実施している。まだまだ他にも細かいものがたくさんある。ぜひ色々な団体の力を結集し、キャッチフレーズ、「“消滅しないぞ いわむら”～人が元気 人が輝く 人が財産～」を目指して引き続き地域のまちづくり活動に頑張ってもらいたい。

#### ■市長 岩村町の状況と事業等について。

人口は5,500人から直近で4,970人。世帯数も少し上がっていたのがこのところ少し下がりはじめた。平成17年を100とすると、恵那市全体で-10.9%。岩村町は13地域の中で5番目、-9.6%。平均より大分上だ。子どもの数は平成17年に57人だったが、直近で22人。平成27年は生まれた子が25人だったが、その後引っ越して来たりして今は30人いる。平成23年は40人生まれ、その後49人になった。その増える部分をどれだけ上乗せしていくかが大事だと思う。平成29年に1歳だった子が6歳の小学校に入る前後ぐらいで移住定住や引っ越しを考えるとということがあるので、今22人生まれたがこの先どれ

だけ上積み出来るかが大事だ。生まれる子の割合は-61%。

5年後の児童生徒数。小学校は今256人いるが平成35年に217人。中学校は今133人で、5年後120人。これ以後はもう少し減ると思う。ぜひ増やす取り組みを色々進めたい。事業について。

岩村消防署で今年納車される予定の新しい救急車。3月納車予定で2600万円ぐらい。

岩村診療所。人工透析システムの入れ替えを30年、31年の2カ年で予定しており事業費は5900万円。29年には4,400人ぐらいが述べて利用した。引き続き行っていきたい。

昨年この場で話が出た岩村城の国有地の払い下げを受けた。10月から基本構想検討委員会がスタートした。今年度3回予定しており第1回がスタートした。払い下げを受けた国有地の中で大変良い材料があり、名古屋城の天守閣の木造復元に出すための材料として何本化を売却出来た。ヒノキ12本サワラ1本、計13本。それ以外に、これをチャンスとして、見通しが出来るように木を余分に切る景観整備で、67本切る予定。売り払い金額4300万、9月議会で認められ、今作業に入っている。

先ほど紹介したまちづくり以外の催しを紹介する。

「千体仏」。私も行った。連休とかぶり、「半分、青い。」と重なったので大変な人で、車を置くだけで30分以上かかった。「渡御行列」は、私は参加出来なかったが、大変多くのお客様にお越し頂いた。

「半分、青い。」について。ラッピング列車。番組のスタートから終了まで。大変人気があった。「えなてらす、いわむら」を作った。9月までに入館者6万3千人。売り上げも1千万円を超えた。多くのお客様にご利用頂いた。旧振興事務所に休憩所を作った。7月13日にオープンし、2万3千人に9月までに利用頂いた。「番組展」。パネルを飾ったり、番組に使われた衣装を飾った。NHKの協力を受けて、勝川家に置かせて頂いた結果、来場者が7万7千人を超えた。「ふくろうまつり」。8月5日に子役の2人に来て頂き、大変な人だった。5月のゴールデンウィークには大変多くのお客様でごった返した。ふくろうまつりは今週末にもあるが、今まで6回で来場者3万9千人。ドラマのロケは昨年10月から11月にかけてと、今年の6月の3日間。視聴率も大変良く20%を常に超えたということで、NHKの中でも大変話題になったと聞いている。

何が良かったかという一つの事例。多くのお客様が来てくれたおかげで、5つの店に期間中にオープンして頂いた。こうした取り組みで、町に賑わい出来る、良いきっかけになったと思う。

今回、ドラマに関して、県が「半分、青い。」活用推進部会を各市町と一緒に作った。この事業が全体で1290万円この半年で支出した。市は単独事業として2530万円。県・市合わせて3800万円ぐらいの事業を、東京でのイベントや名古屋での販売を含めて行った。十分ではなかったかもしれないが、出来るだけのことが出来たと思う。

その他の魅力。1つは、岩村城の城跡。トリップアドバイザーで10位にランクイン。日本の城の中で10位というのは素晴らしい成績だ。これからお客様も増えると期待する。2つ目は、人。改めて人がこの町の一番の良さだと思っている。

## 5. 意見交換

■司会 地区名と名前を言って質問してほしい。

■市民1 城下町ホットいわむらの役員をしている。市長と行政の皆様にお礼を申し上げたい。お金で色々なアクションプラン活用事業を、検討委員会を設立し、みんなと相談してピーアールしてもらい、インフラ整備もしてもらった。マップ作成、地域内の消費対策、特産品の場所など。僕らではなかなか出来ないハード面も、NHKの対応も含め、色々支援して頂いたことで、素晴らしい観光客が来て地域がうるおい恩恵を受けた人がたくさんいる。色々課題はあるが、急遽予算を付けてもらって半年でこれだけのお金を使って頂いたことにお礼申し上げる。

アクションプラン検討委員会がひとまず終わり、課題がたくさんあり、これからやらなければいけないことが見えてきたので、今後も引き続き相談やお願いをしたい。支援も引き続きお願いしたい。

今日はホットいわむらの役員で相談したことを質問する。自主財源を持たずに補助金をもらいながらイベントをやっている。まだ自立出来るまちづくりには遠い。何か自主財源を集めて稼いで自立出来るようにということを考えたとき、ふるさと納税の活用に今年から力を入れたい。岩村町は50万円弱のふるさと納税の寄付金がある。よその地区も聞くと岩村よりかなり多い地区もあるし、現に使い始めている事例もある。50万円では何も出来ないが、これからピーアールすることで、自分たち独自で寄付金を集めることに力を入れる。1、2、3年後に300万、400万となったときに、今のまちづくりの、寄付金制度でこんな応援をしてくださいというピーアールが、ぶれてなければ、どんな使い方しても良いのか。

もう一つ、お礼の特産品は、恵那市でいくつかあるが、岩村にはたくさん財産も宝物もネタもあるので、返礼品として一風変わったものを考えて、そういったことを自分たちで考えてアピール出来るのか。たとえば、食べるものは、1万円で2千円ぐらいのものを返礼したら2千円の価値にしかならないが、5万円寄付して頂いた方には秋祭りの右大臣、左大臣になれるとか、岩村城の整備保存活動に寄付された方は、本丸にのぼりが1年間立つとか。お金では表せないことや、富田の田園風景の保存整備に寄付した人には、茅の宿に何割引で泊まれるとか、五平餅とか、田んぼの体験が出来るとか。そういうものを体験プログラムに入れながら20種類などから選んで頂くようなことが出来るか。

■企画部長 ふるさと応援寄付金は今年10月から大きく制度を変え、ふるさとチョイスというふるさと納税専用サイトを使い、返礼品も16品目から80品目まで増えた。チラシを持っている人には分かると思うが、恵那市の13地域を応援するというメニューに加えて、そのほか明知鉄道を応援するとか、何を応援するかという、応援メニューを選んで頂く。その中で岩村を応援するというところもある。そういったところを選んで頂き、ふるさと応援寄付金ということで、これまでに寄付して頂いたのが50万円程度だが、その中で、10月からは返礼品を拡充した。応援寄付金が非常にしやすくなっている。これから大きな金額が集まる可能性がある。集まったお金は、地域のまちづくりの、地域計画に沿ってまちづくり活動補助金を申請して使っている。地域計画に沿った事業であれば、今の地域まちづくり補助金に上乘せする形で、補助金の形で今は交付を他の地域では実際に行っている。現在の運用の中で、多くの寄付金が集まれば、上乘せする形で出していきたい。ただ、10月から大きく納税しやすい環境が出来て大きな金額が集まる可能性があり、年間5、6百万円集まったから使わせてくれということが懸念されるので、金額の上限を今後検討しないといけないと思っている。基本的には皆様が努力して集めた金は、地域計画に沿った内容であれば交付する。

返礼品を独自に準備して寄付を募りたいということだと思うが、一つはそういう形でも良いかと思う。恵那市の考えでは、ふるさと応援寄付をした人と、地域で応援して頂いてそれを使うところが、何とか顔が見え、こんな形で使ったということで、引き続き毎年応援が出来るような取り組みも出来ればして頂きたい。返礼品で岩村を応援して頂きたい。もしくは、ただ単に、通常の応援寄付金の中で、たまたま岩村を応援したいと言ってきた人に、ダイレクトメールなどで、応援して頂いた方と寄付してくれた人が結びついて、ずっと寄付を頂ける関係を作って頂きたい。という、ひと工夫考えて頂いて、そういう取り組みを実施して頂きたい。

■移住定住推進室長 新しい提案を頂いたので今後検討していきたい。他市町村で体験型のふるさと納税の返礼品目も注目されている。寄付者と寄付してもらった地区とのつながりを深めるためにも、そういうところも全国的に注目されている。10月から恵那市も地域の特産品を中心として品目を増やし、頂く窓口も民間のポータルサイトを利用して間口を広げている。ますます恵那市を応援してくれる人を増やして、頂いたお金を有効活用する姿を見せ、恵那というまちとのつながりを深めていく重要なツールだと認識している。恵那市の魅力を続けることが出来るように進めたい。

■市民1 内容をもう少し勉強して移住定住推進室などと相談しながら提案型のものをどんどん進めたい。岩村城の間伐材が返礼品になるぐらいの材料なので、そういうことも活用して提案したい。

■市民2 振興事務所が今どうなっているか。それはどういうふうに検討されているか。

■企画部長 昨年度1年間検討委員会を立ち上げて頂き検討してきて、最終的な意見のまとめとしては、昨年コミュニティセンターに一時移転した前提で申し上げると、現状の一時移転の状況を、市の財政見通しと人口減少を考慮して、この状況は受け入れよう。上の振興事務所は観光客から見て立地条件の良いところでもあるし、そういう使い方が適当であり、観光面での活用、整備を要望するということで、検討委員会で最終意見をまとめて頂いた。それを受けて、現在振興事務所はこちらで業務を行っている。上の跡地利用は、観光面でどう使えるか、市役所の内部で、観光、生涯学習、地域振興課で検討している。

■市民2 分かりました。市長も新聞で言ってみえたが、私も観光のガイドを頼まれて、1階のソファのある部屋で雨が降ったときには集まってもらって話をするが、非常に良い場所だ。もっと利用出来るようにしてほしい。

もう一つは、2階の場所を生涯学習センターとして利用出来ないか。恵那市は健幸のまちづくり、生涯学習のまちづくりということで、2つのまちづくりをやっている。生涯学習センターの具体的な場所がない。岩村が教育の町とか言われながら、高校も行ってしまふ。生涯学び続ける場所、これが佐藤一斎の精神だ。人は宝、人が財産。

■市長 先日も言志祭に参加させて頂き学ぶ機会を設けて頂きありがとうございました。生涯学習のセンター、もしくは拠点としての活用。ぜひ岩村の地域の皆さんの総意としてまとめて頂きたい。まちづくり企画部長からも言ったが、今は市にボールが投げられており検討することになっているので、その材料としても十分検討出来る。

■市民3 農村風景日本一の見えるところに住んでいる。今年は干ばつのせい、NHKによると、カメムシの消毒をするとミツバチが死ぬということだ。今年は昆虫類が本当に少なかった。トンボも少ないしアゲハチョウもない。三好学の環境学の大先輩が出た町にしては、環境が悪くなってきていると思う。良い知恵があったら勘考してほしい。

■市長 もう少し具体的に教えてほしい。

■市民3 ミツバチがいなくなった。ミツバチを飼う人が全滅した。カメムシの消毒をするとミツバチが全滅するということはNHKでやっていた。トンボ、アゲハチョウ、セミがいなくなる。富田は田んぼばかりなので、そこに消毒を空中散布する。それでいなくなる。と私は思っている。

■市長 農薬を使うことも含めて、生態系が壊れているのではないかというご心配だと思う。私の家はものすごくカメムシにやられているので大分違うのかなと思った。私も農家の子どもではあるが農業に詳しくないので、改めてもう少し詳しくお聞き出来るように、担当に話を聞くようにする。出来ることがあれば考える。

■市民 4 ふるさと納税について。岩村の人が岩村に寄付することは制度上出来ないのか。まちづくりをする人の財源が枯渇してきているので、岩村の人がふるさと納税で岩村を応援することが制度的に出来れば良いと思った。

■副市長 飯地がそれを行った。税制として、恵那市全体を考えると、出来ればそういうことは控えて頂きたいと私たちは思う。元々よそから、親がいたりして、そこを恵那市の市民が、出て行った人の親たちを面倒見ているとかいうことがあって応援するというのが趣旨なので、地元の中でということでない形が良いと、飯地の人にも話をした。ご理解頂きたい。

■企画部長 ふるさと納税の現状についてもう少し説明する。昨年度、恵那市へ市外からふるさと納税を頂いた額が約 600 万円。市内の人が市外へふるさと応援寄付をして、市税から控除にその分になるが、本来入ってくるものが入ってこなくなった額が 2100 万円ぐらい。差し引き 1500 万円ぐらい赤字の状況。交付税措置があるので実際はそのままだが赤字にはならないが、お願いしているのは、地域の人たち、市内の人の税金で入るのが寄付金という形で、歳入の区分では特定財源になってしまって、自由に使えるお金から縛りのある収入になってしまう。ぜひ、市外の子どもや兄弟にふるさと応援寄付で応援してほしいという活動をしてほしい。まちづくりの活動をしている人それぞれが 2 人、3 人にお願いするだけでかなりの金額も集まってくる。その上で、せっかく応援してくれた人に引き続き地域とつながりを持って頂けるように、住民の方が色々アイデアを持っているようなので、一工夫して頂き、来年も再来年も寄付を頂けるように、13 地区へのふるさと応援寄付金の活動もお願いしている。集まったものの使い道は、他の地区から、地域計画に沿った内容であれば補助金として上乘せするというのが現在のスタイルだが、そういったところも少し見直しをして、使いやすい形に変えていきたいと考えている。地域全体で取り組んで頂きたい。

## 6. 市長お礼のあいさつ

■市長 色々な意見を頂きありがとうございました。意見は持ち帰り、担当も含めて検討して結果を出すように努めていきたい。この場で発言出来なかったことがあれば、いつでも良いので、広報のはがきでも良いし、振興事務所長、地元の市議にでも良いので、伝えて頂ければ私どもに届く。皆さんの思いが伝わるような市政にしていきたい。

■司会 これで閉会する。

[ 閉 会 ]